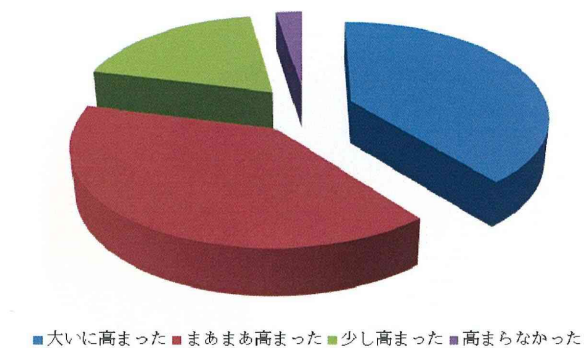


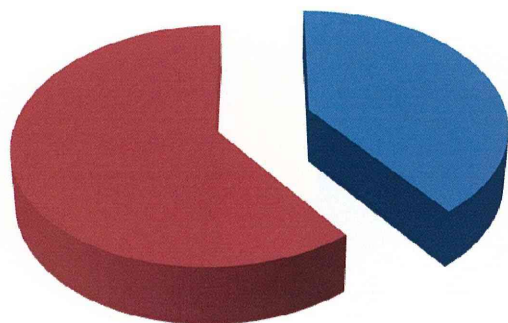
4. ワークショップ全体について

(1) ワークショップに参加されて薬学教育者、指導薬剤師としての意識はたかまりましたか

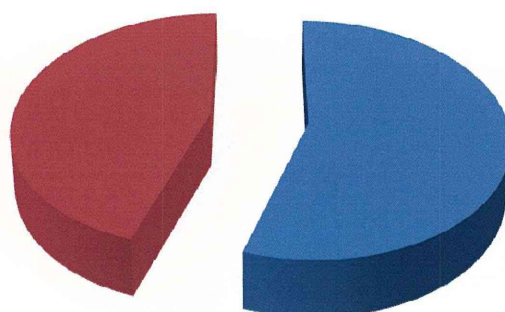


(2) ワークショップに参加して有意義だったと思われる点は何ですか (■はい、■いいえ)

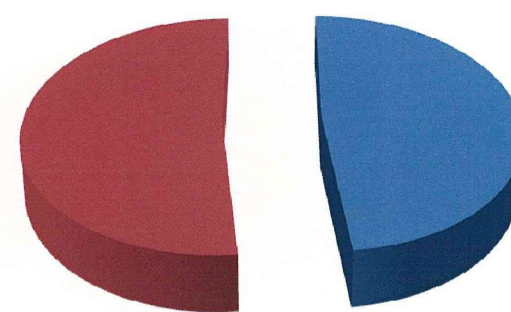
医療人教育改革の現状が理解できた



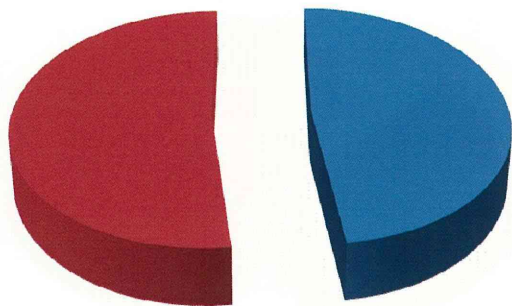
薬学教育改革の現状が理解できた



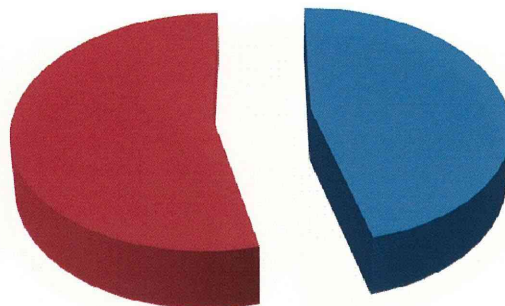
カリキュラムプランニングを経験できた



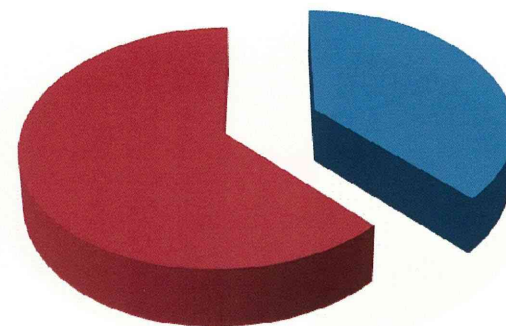
モデルコアカリキュラムの構成内容を理解できた



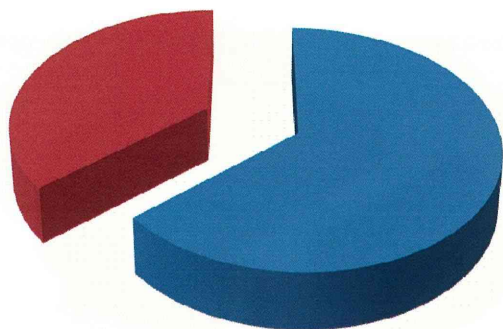
実務実習の実施体制について理解できた



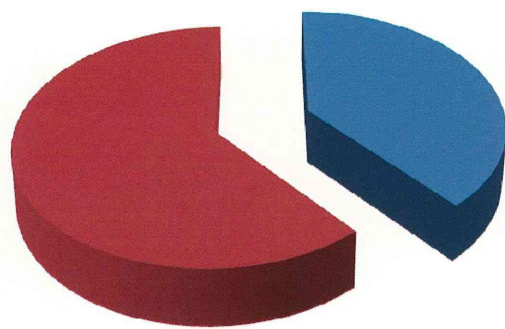
実務実習の実施内容が理解できた



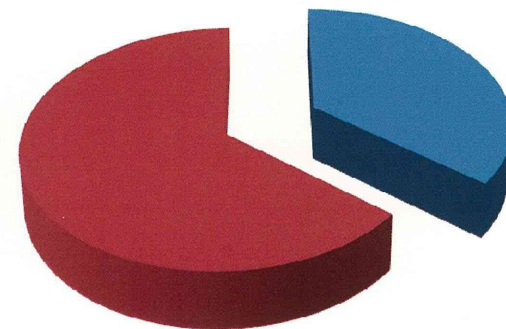
他の職場の薬剤師との情報交換ができた



大学における6年制教育の現状が理解できた

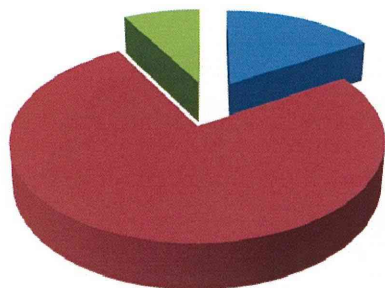


大学教員との情報交換ができた



(4) 今後、ワークショップ受講者を対象とした地区単位・地域単位のアドバンストワークショップが開催される場合

①参加されますか

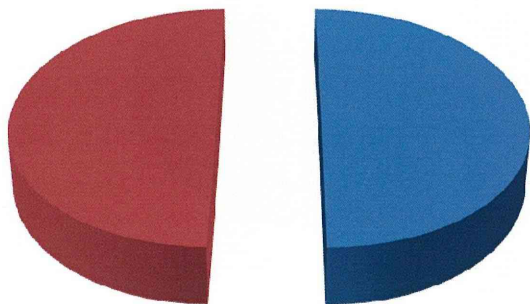


- 参加する
- 条件・内容によっては参加する
- 参加しない

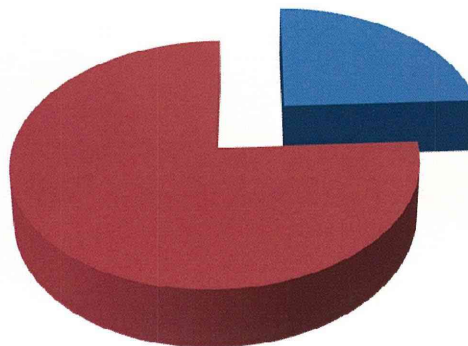
71

②どのような参加者が望ましいと思いますか (■はい、■いいえ)

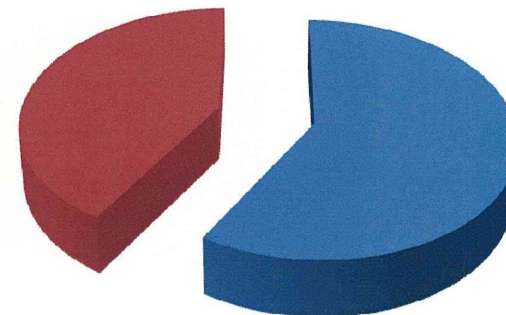
認定実務実習指導薬剤師 (実習受入経験あり)



認定実務実習指導薬剤師 (実習受入経験なし)

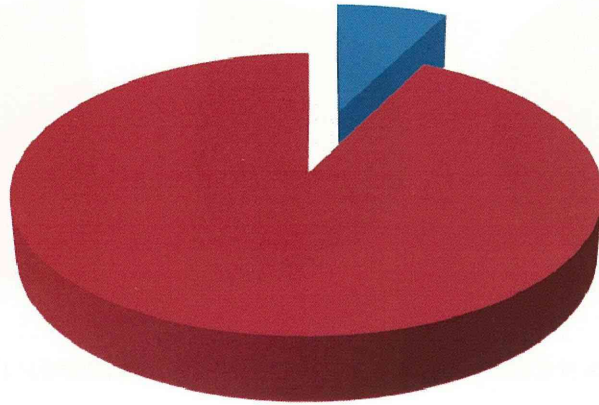


実務実習に関わる薬剤師
(ワークショップの参加・不参加に関わらず)

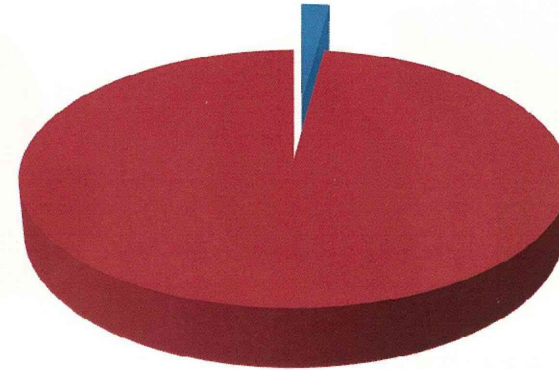


③どのような職域の方が参加されるのが望ましいとお思いですか (■はい、■いいえ)

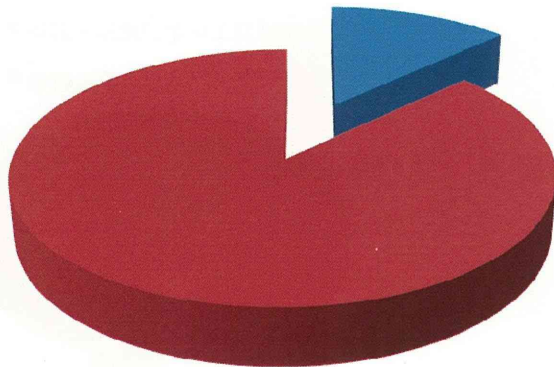
薬局薬剤師のみ



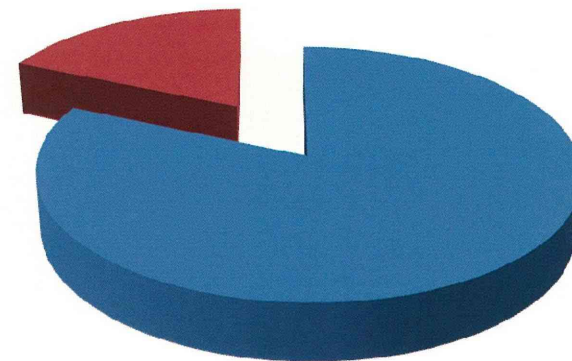
病院薬剤師のみ



薬局薬剤師と病院薬剤師



薬局薬剤師、病院薬剤師および大学教員



資料 2-4

病院・薬局薬剤師アンケート調査結果

(記述回答・CDによる配付資料)

(薬学教育協議会ホームページ<<http://www.yaku-kyou.org/>>にも掲載)



資料 3

平成 22 年度の第 I 期～第 III 期及び 23 年度第 I 期に実務実習を
担当した指導薬剤師を対象としたアンケート調査

まとめ

平成 22 年度の第 I 期～第 III 期及び 23 年度第 I 期に実務実習を担当した
指導薬剤師を対象としたアンケート調査

まとめ

1. アンケート調査の依頼

(1) 薬学教育協議会から薬科大学長・薬学部長への依頼

薬教協発第 11040 号

平成 23 年 8 月 19 日

薬科大学長・薬学部長 殿

一般社団法人 薬学教育協議会

代表理事 望月 正隆

認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ関連アンケート調査

(ご協力をお願い)

謹啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は薬学教育協議会の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度の実務実習は心配しておりました東北地区大学の実習も大きなトラブルもなく進展したように伺っております。これまで全国で実施された実務実習を俯瞰するとき、実務実習の成否は現場で学生指導にあたる認定実務実習指導薬剤師の教育者としての資質の向上と努力に負うところが大きいことを改めて感じる次第です。

さて、平成 17 年度から 5 年間にわたる厚生労働省の補助金事業により、1 万人を超える認定実務実習指導薬剤師が養成されておりますが、薬学教育協議会では、平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金事業*の一環として、認定実務実習指導薬剤師の認定要件の一つとされた「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）」プログラムの実習指導における有用性・実効性を検証する目的で、認定実務実習指導薬剤師を対象にアンケート調査を実施することと致しました。

つきましては、お忙しい中お手数をおかけして誠に申し訳ありませんが、CD にて同封致しました「アンケート調査票」を、貴大学の平成 22 年度および平成 23 年度第 I 期実習を受け入れた全施設に送付いただきたく、貴大学のネットワークを通してご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本アンケート調査の結果につきましては、貴大学の実務実習の改善・充実のための個別の資料としてお送りするほか、薬学教育協議会からの出版物、ホームページなどで公開させていただきますので何卒ご協力の程お願い申し上げます。

謹白

*平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器などレギュラトリーサイエンス総合研究事業)
「薬剤師養成の実質化を実現するための実務実習指導薬剤師養成研修改革に関する調査研究」

【ご協力をお願いする事項】

お手数をおかけしますが、下記の作業を 9 月末日までに完了致したく存じます。
何卒ご協力の程お願い申し上げます。

1. 「アンケート調査票」のメール配信について

平成 22 年度および平成 23 年度第 I 期実務実習において貴大学の実習生を受け入れた全実習施設（薬局および病院）に、CD に収めた以下の資料を、貴大学のネットワーク（メール配信など）を通してお送りください。

- ① 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ関連の「アンケート調査票」
- ② 薬学教育協議会からの薬局および病院薬剤部長宛アンケート依頼文書

2. 配信リストのご提供について

「アンケート調査票」をお送りいただいた実習施設名（病院および薬局）とその連絡先電話番号を CD に収めたエクセルの一覧表にてご提供ください。メールの添付書類として、薬学教育協議会事務局 <workshop@ac.auone-net.jp> 宛にお送りいただければ幸いです。

本表はアンケートの回収の確認と内容に関する問い合わせに限って使用致します。

なお、アンケートの回収につきましては、10 月末日までに実習施設の認定実務実習指導薬剤師から直接、薬学教育協議会宛にメールで回答していただきます。アンケート結果はご提供いただいた実習施設一覧表に基づき集計し、大学別にお送りします。

また、全体に関するものは薬学教育協議会からの出版物、ホームページなどで公開させていただきますのでご了承ください。

以上

(2) 薬学教育協議会から病院への依頼

薬教協発第 11041 号

平成 23 年 8 月 19 日

実務実習受け入れ病院 薬剤部長 殿

一般社団法人 薬学教育協議会

代表理事 望月 正隆

実務実習指導薬剤師養成ワークショップ関連アンケート調査へのご協力をお願い

謹啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は薬学教育協議会の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度実務実習は心配しておりました東北地区大学の実習も大きなトラブルもなく進展したように伺っております。これまで全国で実施された実務実習を俯瞰するとき、実務実習の成否は現場で学生指導にあたる認定実務実習指導薬剤師の教育者としての資質の向上と努力に負うところが大きいことを改めて感じる次第です。

さて、この度、薬学教育協議会では、平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金事業*の一環として、認定実務実習指導薬剤師の認定要件の一つとされた「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）」プログラムの実習指導における有用性・実効性を検証する目的で、認定実務実習指導薬剤師を対象に、アンケート調査を実施することになりました。

つきましては、平成 22 年度、および平成 23 年度第 I 期実務実習を受け入れた病院の認定実務実習指導薬剤師の皆様には、お忙しい中お手数をおかけして誠に申し訳ありませんが、大学を通してお送りする別紙の「アンケート調査票」にご回答いただきますよう、ご協力をお願い申し上げます。

本アンケート調査の結果につきましては、実務実習の改善・充実のための個別資料として各大学にお送りするものを除き、薬学教育協議会からの出版物、ホームページなどで公開させていただきますので何卒ご協力の程お願い申し上げます。

謹白

*平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器などレギュラトリーサイエンス総合研究事業)
「薬剤師養成の実質化を実現するための実務実習指導薬剤師養成研修改革に関する調査研究」

アンケートへの回答について

1. アンケート調査票の送付

平成 22 年度および平成 23 年度第 I 期の期間に実務実習を実施した病院薬剤部に、大学からメールなどにより、認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに関する「アンケート調査票」が送付されます。複数の大学から実習生を受け入れた施設にはそれぞれの大学から同じ「アンケート調査票」が届きますが、大学別に対応していただく必要はありません。

実務実習を担当した貴施設の認定実務実習指導薬剤師ひとりにつき 1 通の「アンケート調査票」をお渡してください。

2. アンケートの回答

- 1) 貴施設の実務実習を担当した全ての認定実務実習指導薬剤師に回答をお願いします。
- 2) 施設コード番号、受け入れ大学名および時期と人数、連絡先電話番号は必ずご回答ください。
- 3) ご回答いただいたアンケートはメールの添付書類として、直接、認定実務実習指導薬剤師から薬学教育協議会事務局<workshop@ac.auone-net.jp>宛に返信してください。
- 4) 回答提出期限：平成 23 年 10 月 31 日（月）

以上、よろしくご協力をお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいたアンケートは、受け入れ大学の実務実習の改善・充実のための個別資料として各大学にお送り致しますが、アンケートの目的と異なる情報（回答者および実習施設が特定されるような情報）は漏洩することの無いよう配慮致します。

アンケートに関する問い合わせ先：

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2・12・15 日本薬学会長井記念館 3F

一般社団法人薬学教育協議会事務局 **TEL: 03-3400-3237** **FAX: 03-3400-3278**

E-mail: workshop@ac.auone-net.jp

(3) 薬学教育協議会から薬局への依頼

薬教協発第 11041 号

平成 23 年 8 月 19 日

認定実務実習指導薬剤師 殿

一般社団法人 薬学教育協議会

代表理事 望月 正隆

認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ関連アンケート調査へのご協力をお願い

謹啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は薬学教育協議会の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度実務実習は心配しておりました東北地区大学の実習も大きなトラブルもなく進展したように伺っております。これまで全国で実施された実務実習を俯瞰するとき、実務実習の成否は現場で学生指導にあたる認定実務実習指導薬剤師の教育者としての資質の向上と努力に負うところが大きいことを改めて感じる次第です。

さて、この度、薬学教育協議会では、平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金事業*の一環として、認定実務実習指導薬剤師の認定要件の一つとされた「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）」プログラムの実習指導における有用性・実効性を検証する目的で、認定実務実習指導薬剤師を対象に、アンケート調査を実施することになりました。

つきましては、平成 22 年度、および平成 23 年度第 I 期実務実習を受け入れた施設の認定実務実習指導薬剤師の皆様には、お忙しい中お手数をおかけして誠に申し訳ありませんが、大学を通してお送りする別紙の「アンケート調査票」にご回答いただきたく、ご協力をお願い申し上げます。

本アンケート調査の結果につきましては、実務実習の改善・充実のための個別資料として各大学にお送りするものを除き、薬学教育協議会からの出版物、ホームページなどで公開させていただきますので何卒ご協力の程お願い申し上げます。

謹白

*平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器などレギュラトリーサイエンス総合研究事業)
「薬剤師養成の実質化を実現するための実務実習指導薬剤師養成研修改革に関する調査研究」

アンケートへの回答について

1. アンケート調査票の送付

平成 22 年度および平成 23 年度第 I 期の期間に実務実習を実施した薬局に、大学からメールなどにより、認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに関する「アンケート

調査票」が送付されます。複数の大学から実習生を受け入れた施設にはそれぞれの大学から同じ「アンケート調査票」が届きますが、大学別に対応していただく必要はございません。

実務実習を担当した貴施設の認定実務実習指導薬剤師ひとりにつき 1 通の「アンケート調査票」をお渡してください。

2. アンケートの回答

1) 貴施設の実務実習を担当した全ての認定実務実習指導薬剤師に回答をお願いします。

2) 施設コード番号、受け入れ大学名および時期と人数、連絡先電話番号は必ずご回答ください。

3) ご回答いただいたアンケートはメールの添付書類として、直接、認定実務実習指導薬剤師から薬学教育協議会事務局<workshop@ac.auone-net.jp>宛に返信してください。

4) 回答提出期限：平成 23 年 10 月 31 日（月）

以上、よろしくご協力をお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいたアンケートは、受け入れ大学の実務実習の改善・充実のための個別資料として各大学にお送り致しますが、アンケートの目的と異なる情報（回答者および実習施設が特定されるような情報）は漏洩することの無いよう配慮致します。

アンケートに関する問い合わせ先：

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 日本薬学会長井記念館 3F

一般社団法人薬学教育協議会事務局 **TEL: 03-3400-3237** **FAX: 03-3400-3278**

E-mail: workshop@ac.auone-net.jp

2. アンケート結果のまとめ

本アンケートについては、認定実務実習指導薬剤師のうち、平成22年度Ⅰ期からⅢ期及び平成23年度Ⅰ期に病院あるいは薬局において実務実習指導を行った経験のある方を対象にして実施した。回答数は、病院が1,636件、薬局が2,088件、合計3,724件に達した。記述形式のアンケートについても多くの回答があり、ワークショップの意義や効果、課題・問題点について、貴重なご意見をいただくことができた。

本ワークショップでは、教育を「学習者の行動（知識・技能・態度）に価値ある変化をもたらすこと」と捉えている。学習者の到達すべき目標を設定し、教える側全員がこの目標を理解した上で、教育の方法、評価法を具体的に作り上げ、学習者が目標に達したか、この教育の方法そのものが妥当であるかなどを評価し、より良いカリキュラムを作りあげていく手法を体得することが必要となる。

ここでは、このようなワークショップの趣旨を念頭に、本アンケートの結果を今後のワークショップの改善に活かし、また発展的な継続に反映させるための検証作業の一助として、以下のように選択形式及び記述形式のアンケート項目毎に整理した。

(1) ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について

1) カリキュラムプランニングについて

【選択形式の設問】

- ① カリキュラムプランニングについて理解できましたか。
- ② 薬学教育、特に実務実習におけるカリキュラムプランニングの意義・重要性についてどのように思われますか。
- ③ カリキュラムプランニングについて経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか。
- ④ カリキュラムプランニングについて経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。

《まとめ》

- ・ カリキュラムプランニングそのものを理解し、薬学教育、特に実務実習におけるカリキュラムプランニングの重要性については病院90%以上、薬局約90%の参加者が重要であると回答していることは、ワークショップの一つの目的が達成されている。ことを示している
- ・ しかし、ワークショップで経験したことが、実務実習で役立ったか、という問いになると、役立ったと答えたのは病院73%、薬局72%となり、実習で活用できたか、

という問いでは病院、薬局ともにおよそ 45%となった。

「荀子」(儒教編二十三)に、「聞かざるは、これを聞くにしかず。これを聞くは、これを見るにしかず。これを見るは、これを知るにしかず。これを知るは、これを行うにしかず。学はこれを行うに至りて止む。」とある。これは本ワークショップの方略のプレゼンテーションで使用する英語で記された諺の元と思われるが、「行う」ところまで到達した参加者が 45%あることは、評価すべきことである。実務実習のカリキュラムは、与えられるものではなく、方略については、学習すべき時間は別として、学習方法は個々の学生の資質にあわせて自分で立案するのだ、という態度で臨む方が多くおられたという事実を物語るものであろう。

【記述形式の設問】

[1] カリキュラムプランニングを経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか。役に立ったことがあれば具体的にお書き下さい。

《まとめ》

(病院)

モデル・コア・カリキュラムに関する基本的な考え方や作成方法、さらに目標、方略、評価のそれぞれの意義や設定の仕方が理解でき、実習のスケジュール作成や指導に役立ったとの回答が目立った。特に、学生に目標を明示することが指導を行う上で重要であることが理解でき、指導に生かすことができたとの回答が多かった。また、教育における学習者と指導者の関係、参加型実習の重要性について理解でき、学生中心の実習を行うこと、教授錯覚にならないこと、といった配慮ができたとの回答もあった。直接カリキュラムプランニングとは異なるが、SGD の効果が理解できたことをあげる回答も多かった。

(薬局)

回答の内容は上記の(病院)と大きな違いはなく、同様に、目標、方略、評価のそれぞれの意義や設定の仕方が理解でき、実習のスケジュール作成や指導に役立ったとの回答が多くを占めた。特に、目標設定の重要性をあげる回答が目立った。カリキュラムだけではなく、参加型実習の重要性や、実習生に対する基本的な接し方・指導方法についての理解、SGD の効果に対する理解が深まったという回答も(病院)と同様であった。

【記述形式の設問】

[2] カリキュラムプランニングについて経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。活用された点があれば具体的にお書き下さい。

《まとめ》

(病院)

具体的な活用例として、実習のカリキュラム、スケジュール作成に活用できたという回答が最も多かった。実際の指導においても、目標の設定と同時に、方略の作成に活用しているとの回答が多く、資源の活用や参加型実習の実践があげられた。また、形成的評価を中心に評価において活用された例も多かった。さらに、SGD と KJ 法もよく活用されている。参加型・体験型実習にするために、病棟業務を増やした、との回答もあった。医療倫理やチーム医療といったワークショップで扱ったユニットのカリキュラム内容についても、具体的に実習に生かすことができるものがあったことが伺えた。

(薬 局)

上記の(病院)と同様に、実習のカリキュラム、スケジュール作成に活用できたという回答が最も多かった。形成的評価、PNP の実践なども実習指導で有効に活用されている。また、SGD と KJ 法の活用は、(病院)と同様、相当数にのぼった。薬局での業務に合わせたスケジュール作りや協力薬局・他施設との連携に活用したという例もあげられた。

2) 学習目標について

【選択形式の設問】

- | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>① 学習目標の設定について理解できましたか (GIO・SBOs)。</p> <p>② 薬学教育、特に実務実習において学習目標を設定することの意義・重要性についてどのように思われますか。</p> <p>③ 学習目標の作成について経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか。</p> <p>④ 学習目標の作成について経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

《まとめ》

- ・ GIO、SBOs という目標の設定、設定の意義・重要性についてはいずれも、病院 90% 以上、薬局はやや高く、95%の参加者が理解したと回答している。
- ・ しかし、実習を行う上で役立ったかが病院 77%、薬局 78%、活用したかでは、病院 50%、薬局 53%でなった。

カリキュラムプランニングと同様、良い結果と言える。

【記述形式の設問】

- | |
|---------------------------------------------------------------------------|
| <p>[3] 学習目標の作成について経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか。
役に立った点が具体的にあればお書き下さい。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------|

《まとめ》

(病 院)

カリキュラム作成時に、的確に目標を設定することが学習者と指導者の両方にとっ

て大変重要であることが理解され、目標を明確にすることで方略、評価方法が設定できること、目標を設定することで学習内容を均質化でき、指導のポイントも明確にできることなどがあげられた。特に、妥当な目標を設定し学生に示すことが学習意欲を高めることに役立ち、また評価基準を明示するためにも必要であるとの回答があった。学習者を主語にすることの意義・重要性をあげる回答もあった。

(薬 局)

上記の(病院)と同様の回答が多く、目標がニーズに対応するものであることが理解できたこと、目標を明確にすることで教えるべきことが明確になり、また方略、評価方法の設定もスムーズに行えること、さらに学生の自主性やモチベーションの向上につながるなどが役立ったこととしてあげられた。実習の均質化が可能になり、また指導薬剤師と学生と一緒に達成すべき目標を確認することによって効率的かつ効果的に実習を進めることができたといった回答もあった。

【記述形式の設問】

[4] 学習目標の作成について経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。活用された点が具体的にあればお書き下さい。

《まとめ》

(病 院)

実習施設に合わせたカリキュラムやスケジュールの設定、実習テキストの作成に活用したといった回答が多かった。実務実習についてはモデル・コア・カリキュラムによって GIO、SBOs が示されているので、目標設定そのものに生かされた例は多くはなかったが、施設独自の目標設定や個々の学生に対応した目標の設定、モデル・コア・カリキュラムをより具体的に表現することに活用された例があげられた。また、新人教育や施設内での研修といった実務実習以外での活用もあった。

(薬 局)

上記の(病院)と同じく、カリキュラムやスケジュールの設定に活用したという回答が多く、実際の実務実習の指導においても、GIO や SBOs さらには学生のニーズを意識した指導が行われていることが伺えた。また、知識・技能・態度を盛り込んだ実習ができた、RUMBA を意識した指導を行った、体験型実習に心掛けた、といった回答もあった。教育効果の高い方略や評価方法を策定するためには、目標を的確に設定することが重要であることも、実習指導を通して実感できたのではなかろうか。

3) 学習方略について

【選択形式の設問】

① 学習方略の設定について理解できましたか。

- ② 薬学教育、特に実務実習において学習方略を設定することの意義・重要性についてどのように思われますか。
- ③ 学習方略の作成について経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか。
- ④ 学習方略の作成について経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。

《まとめ》

- ・ 方略の立て方、設定の意義・重要性の理解は、病院、薬局ともに 90%程度で、病院のほうがやや高い結果であった。
 - ・ 方略の立て方で学んだことが役立ったかは、病院、薬局ともに 73%であるが、活用したかで、病院 49%、薬局 51%となった。
- いずれも良い結果と言える。

【記述形式の設問】

- [5] 学習方略の作成について経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか。役に立った点が具体的にあればお書き下さい。

《まとめ》

(病 院)

目標との関連性、物的資源・人的資源の重要性、目標達成のための学習の順序の重要性、目標に合わせて様々な学習方法が活用できることなどが理解でき、指導に役立ったとの回答があった。また、実習施設に合わせた時間配分により計画を立てることが可能になり、学習方法としての SGD の有用性についても理解が得られた。これらによって、モデル・コア・カリキュラムに例示してある方略に対する理解が進んだことが伺える。

(薬 局)

実習施設の業務形態に合わせた方略が作成できた、スケジュールが立てやすかった、SBOs に合わせて適した学習方法を選ぶことができた、能動的学習方法となるように工夫できた、LS の選択肢が広がったなど、実習を指導を行う上で役立ったとの回答が多かった。Dale の円錐を意識して指導ができた、人的資源、物的資源、予算を考えることの必要性が認識でき、また工夫もできたという回答もあった。全体として、上記の(病院)と同様に、モデル・コア・カリキュラムに例示してある方略に対する理解が進んだことが伺える。

【記述形式の設問】

- [6] 学習方略の作成について経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。活用された点が具体的にあればお書き下さい。

《まとめ》

(病 院)

目標と同様に、カリキュラムやスケジュールの設定に活用したとの回答が多かった。各 SBOs に合わせた具体的な学習方法の選択やその順序の設定、資源の選択とその準備に生かすことができ、実際に様々な学習方法を実習で活用できたとの回答もあった。ワークショップにおける実務実習のユニットについては、実際の方略のプロダクトが良い例になっているようで、実務実習において多様な学習方法や資源の活用が行われている。

(薬 局)

上記の(病院)と同じく、カリキュラムやスケジュールの設定に活用したとの回答が多かった。講義・見学・ロールプレイを繰り返すなど、教育効果や学生の興味を考えて学習の順番を工夫できた、学習方法として SGD を活用できた、学習資源を SBO 毎に精査し準備できたといった具体的な活用事例もあげられた。ここでもワークショップでの経験が多様な学習方法の活用につながったことが伺える。

4) 教育評価について

【選択形式の設問】

- ① 教育評価方法の設定について理解できましたか(総括的評価・形成的評価)。
- ② 薬学教育、特に実務実習において教育評価の方法を設定することの意義・重要性についてどのように思われますか。
- ③ 教育評価の方法の作成について経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか。
- ④ 教育評価の方法の作成について経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。

《まとめ》

- ・ 形成的評価、総括的評価の設定、意義・重要性は、病院ともに 90%程度で差はない。
- ・ 実務実習で役立ったかは、病院、薬局ともに 73%程度、活用したかは、病院 52%、薬局 54%であった。

カリキュラムの3要素の内容と作成方法、意義については、理解度は 90%と高いが、実際に役立ったか、活用したかというところでは、カリキュラムプランニングと同様の結果で、およそ 50%まで下がったが、これは良い結果である。病院よりも薬局のほうがわずかに高い傾向があるが、病院では、複数の指導者がいることが多いために、指導者個人としての意識がやや下がる傾向にあることを示すのかもしれない。薬局では、何から何まで一人の指導者に負担がかかるため、活用しなければならないという場面が多いと推察された。

【記述形式の設問】

[7] 教育評価方法の作成について経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか。役に立った点が具体的にあればお書き下さい。

《まとめ》

(病 院)

教育における評価の在り方が理解できたという回答が多く、特に形成的評価の重要性について取り上げるものが目立った。また、評価の方法や評価基準の設定あり方や、についても理解できたという回答も多かった。実際の実習指導での有用性については肯定的な回答が多かったが、これを疑問視する意見や現場での効果的な適用が難しい、具体性に欠けるとする意見もあった。

(薬 局)

上記の(病院)と同じく、評価の在り方について理解でき、実習指導に役立ったという回答が多く、特に形成的評価の重要性や効果について取り上げられた。形成的評価と総括的評価の関係や、目標毎に適切な評価方法を選択すること、客観性や妥当性を考慮することの重要性についての認識が得られたことを示す回答も多かった。

【記述形式の設問】

[8] 教育評価方法の作成について経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。活用された点が具体的にあればお書き下さい。

《まとめ》

(病 院)

ワークショップで取り上げた観察記録やチェックリストを実際に使用したとの回答が多く、形成的評価、特に技能・態度の評価に活用されていることが伺える。日々の評価として口頭確認を行い、また同僚評価を取り入れたとの回答もあった。評価については、指導薬剤師が実際の行為として学生に関わる事項であり、目標、方略に比べて、その有用性や課題をより実感できる要素であることから、回答もより具体的でその効果まで言及するものが多かった。

(薬 局)

実習を行う上で用いた評価方法があげられ、これらがSBOs 毎あるいは知識・技能・態度によって妥当性を考慮して選択されていることを伺わせる回答が多かった。特に形成的評価の活用についての回答が目立ち、PNPを意識した口頭確認、気づきや目的・時期・方法を配慮した評価などがあげられた。評価については、上記の(病院)と同様に、目標、方略に比べて、その有用性や課題をより実感できる要素であることから、回答もより具体的であった。

5) カリキュラムプランニングで担当したユニットについて

【選択形式の設問】

- ① どのようなユニットを担当されましたか。
- ② 担当されたユニットのカリキュラム作成作業をされたことについてどのように思われましたか。

《まとめ》

実際にカリキュラムプランニングを行ったユニットごとに参加者の回答が集計されていないため、詳細はわからないが、ユニットが何であったかに関係なく、病院、薬局のいずれの参加者も 86%程度が有意義だったと答えている。このことから、実施したユニットにはマイナス面はほとんどないと思われる。90%を越えない理由は、タスクフォースが、①薬局実務実習のユニットの場合には、病院薬剤師の参加者に参加するモチベーションを高めるように、また、②病院実務実習のユニットでは、薬局薬剤師の参加者が討議に参加できるように、S 会場でタスクワークができたか否かによる結果であろう。

【記述形式の設問】

- [9] どのようなユニットを担当されましたか。その他の場合は具体的にお書きください。

《まとめ》

ワークショップで担当されたユニットに関する質問であったが、その意図が理解されず、実際に実務実習で担当されたユニットについての回答がほとんどであった。取り上げるべきものは以下のとおりである。

(病 院)

リスクマネジメント・医療事故防止、治験、病原微生物と戦う

(薬 局)

在宅、地域医療、薬局アイテムと管理、個別化薬物治療入門、薬局カウンターでのコミュニケーション

【記述形式の設問】

- [10] 今後取り入れるべきコース（領域）があれば、お示しください。

《まとめ》

以下に提案されたものを列記する。ワークショップで取り入れるべきものか、実際の実習のカリキュラムとして取り入れるべきものか、区別がつきにくかった。また、ユニットに相当するものがほとんどである。